

みんなに楽しいクリスマスを！

廃材回収による寄付活動を続けて三十餘年

地域密着型企業ボランティア活動 ➡➡➡

島根県電気工事工業組合青年部

【しまねけんでんきこうじこうぎょうくみあいせいねんぶ】

総合事務所 島根県松江市南田町125-45 TEL.0852-21-7433

電気工事の関係会社の組合団体「島根県電気工事工業組合」の青年部が設立されたのは昭和54年です。現在組合全体では130社余り、青年部だけでも30数社が加盟しています。

青年部が設立された時より組合の社会貢献のPRもかねて、通常ならば廃棄される工事の廃材を回収して、売却して得た利益を施設や団体に寄付する活動を続けています。

自分たちの仕事環境の中で、捨てられるゴミの中から宝を救い上げて、みんなが笑顔になるボランティア活動を展開してきた島根県電気工事工業組合青年部の活動をご紹介します。

取り組みの
経緯

全国的にも珍しい、廃材をリサイクルして
環境保護と慈善事業の両立を実現する活動

電気工事に使用する電線には、内部に銅線が使用されています。工事の際に出る銅線の余りや切端は、通常では廃材として処理されてしまうのですが、それを回収してリサイクル材として売却して寄付にあてるという全国的にも珍しい活動を開いているのが島根県電気工事工業組合青年部の参加会社です。

ひとつひとつの会社から出る廃材の量はそう多いわけではありませんが、それが組合企業130数社を廻って集めてみると、まとまったものになります。組合という広いネットワークを活用してボランティアに取り組むことで、はじめて実現できた例といえます。

もちろん廃材をリサイクルすることは、環境保護への取り組みとしても有効なもので、慈善事業としての取り組みと併せて、地域貢献に役立っています。

毎年11月の後半に各組合参加企業へ協力を要請し、その後青年部のメンバーが企業を廻って廃材を回収し、集まったものをリサイクル業者へ売却し、クリスマスに間に合うように寄付を行っています。

大きな喜びとやる気を奮起させる、寄付先からのお礼の手紙

島根県電気工事工業組合青年部は、平成20年度から、出雲地区里親会に寄付を始めました。里親とは、さまざま事情により親と一緒に生活することができない子どもたちを自分の家庭に迎え入れ、あたたかい家庭で愛情を込めて養育してくださるみなさんです。里親になるために特別な資格はありません。みなさんが子どもが好きで愛情と熱意をもって養育してくださっています。出雲地区里親会からは寄付の贈呈式を開催していただき、青年部のメンバーは自分たちの活動に対する喜びの声を感じることができました。

さらにそのご縁で、平成21年度からは島根県里親会へ寄附するようになりました。クリスマス時期に図書券を贈る活動は里親とそこで生活している児童のみなさんに大変に喜ばれて、島根県里親会からは感謝状が贈呈され、同時に里親家庭の子どもたちよりたくさんの感謝の手紙もいただきました。

それぞれが自分の好きな本を買える喜び、それでもっと勉強をしますという意欲がどの手紙の文面からも感じられ、自分たちの活動が暖かい感謝の形で戻ってきたことは大変嬉しいことでした。

そして青年部の活動は、さまざまなボランティア団体とともに、平成22年度の島根県民いきいき活動奨励賞

を企業部門で受賞しました。

いち早く廃棄物対策や社会貢献活動に着目し、通常の企業活動から社会貢献活動へつなげた仕組みは、企業ボランティアのモデルとなりうる活動で、本業を活かした社会貢献活動として、島根県内全域で長年にわたり行われている継続的な取り組みであることが評価された結果です。

メンバーはこの受賞を期に、さらにこのボランティア活動を広げていこうと決意を固めています。



島根県里親会より感謝状、贈呈

今後に
向けて

活動に慣れることなく、形にとらわれることなく、 自分たちのできることをやっていこう

平成21年は青年部が設立されて30周年の年でした。祝賀行事の開催も検討されましたが、その予算で「目の不自由な人が歩くエリアを判別しやすいマット」を寄贈することにしました。

出雲市社会福祉センターの床に、青年部のメンバーがグリーンのマットを自分たちで施工、設置しました。本業の技術で設置は半日ほどで完了し、以後、目の不自由な人たちに重宝され、このマットは県庁、空港などにも導入されています。

このように継続的に展開するボランティア活動のみにとどまらず、さらに新しい社会貢献ができるかを模索する姿勢が島根県電気工事工業組合青年部のメンバーにはあります。本業の電気工事技術の勉強会の開催などの活動に加えて、このような慈善活動を併せて展開していくことが、島根県電気工事工業組合青年部の本業を活かしたボランティア活動なのです。



里親会の子どもたちからの感謝の手紙



青年部のメンバーが施工・設置した
グリーンのマット